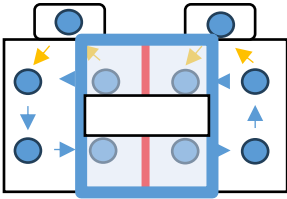


第6学年4組 体育科 ソフトバレーボール

学習活動・予想される児童の反応	本時見られた深く学び続ける子どもの姿
1 振り返りカードを見ながら、本時のめあてにつなげる話を行い、ドリルを選択して実行する。【既】 ○ドリルゲーム 選択 個々の課題に応じて練習を選択する。 思ったところにトスが上がらないよ <u>トストスゲーム</u> ・トスのみでパスを行い、時間内につないだ回数を競う。 <u>リングゲーム</u> ・リングにトスでボールを入れ、入ったり ・いろんな場所に投げ、ボールの落下地点に入って返す。 ・壁にボールを当てて、跳ね返ってきたボールをレシーブする。 自分たちの課題に応じて、ドリルやタスクゲームを選択して、課題解決に取り組もう。	○ 前時の振り返りカードを書く段階で、自分の苦手を明確化しておくことで、本時の流れを頭に入れて、準備→ドリルゲームというように、自分たちで動く姿が見られた。 ○ ドリルゲームでは、声をかけながら行う姿やフォームを確認する姿、タブレットで練習方法を見ながら行う姿が見られた。
2 ボールの高さに応じてレシーブとトスを使い分けることや、正確にボールを返すポイントを押さえて、メインゲームに取り組む。【既】【他】 (1) 味方にボールをつなげるための動き方を考えながらゲームを行う。 - 膝を曲げて体全体を使う動きを意識しながらゲームを行う。  - 体の向きやボールを当てる位置を考えて、正確に返したいな。 - レシーブとトスの使い分けが難しいな。 - トスからアタックにうまくつながらないな。 (2) ゲームで課題を明らかにし、タスクゲームを選択する。 - チームの課題に応じて練習を選択する。 選択 ボールを正確に返せるようにしたいな トスからアタックがうまくいかないな <u>ステージパスゲーム</u> ・ステージの上の人がキャッチできるように、レシーブやトスで返球する。 <u>パスアンドゴーゲーム</u> ・レシーブかトスをして、次の人に返す。チームで何回できたか競う。 <u>セッターキャッチゲーム</u> ・レシーブかトスをして、次の人に返す。チームで何回できたか競う。 <u>3vs3</u> ・人数を減らして、一人一人の役割を明確にする。ルールを入れる。	C1 声を掛け合うことによって、つなげることができてきた。 T まだ課題はありそう？ C1 トスからアタックのつながりがうまくいってない。だから、トスのフォームを見直すこととアタッカーの位置を把握することが大切と思う。 C2 壁サーブレシーブをやってみたらどうかな
(3) チームの課題が解決できたか、ゲームで確かめる。 3 本時の学習でできるようになった動きや次時への目標を、振り返りカードに書いて交流し、次時のドリルゲームを選択する。【自】 ○振り返りカードの記入と次時のドリルゲームを選択。 選択	○ 一回目のメインゲームと二回目のメインゲームを比べて、うまくいったところをチームで話し合い、次のドリルゲームは何をすればいいの自分で選択して振り返りカードに記入する姿が見られた。

- 動かない対象物から動く対象物へのレベルの変化の練習においては、個人の能力に応じて練習材料を変えることができ、個々の課題に応じて選択する子ども主体での授業で、自己調整学習が有効であると感じた。
- ドリルゲームとタスクゲームの違いの理解が足りず、選択の際にごちゃごちゃになってしまっていたので、それぞれの定義をもっとしっかりとおさえることが必要だった。